

2019年度 統計データ分析コンペティション

論文審査会 総評

高校生の部

コンペティションも2年目を迎えた。この種の論文を執筆することは、多くの高校生にとって初めての経験と考える。しかし、提出論文には、高校の水準を超えた分析技術を駆使したもの、高校生らしい統計活用を積み上げたものなど、様々な特徴が示された。一部の論文には、分析に相当な時間を費やしたであろうことが容易に推察できるものもあった。論文審査会では入賞した作品についても様々な問題点があることが指摘されたが、それらは雑誌「統計」掲載時までには十分解消されるものと考えられる。入賞しなかった論文についても、論文審査会はその活動を高く評価するものである。

大学生・一般の部

大学生・一般の部に提出された論文の上位は僅差であった。また、素朴な分析で政策的提案の導出に優れた論文と、データ分析として先端的な方法にチャレンジした論文とに2極化し、審査プロセスの中でもどのような論文を高く評価するかについて議論があったところである。統計技術的に自信のある学生は、分析するテーマについて、どのような研究がこれまで行われてきたかについて調べ、自身の分析の独創性の有無や因果仮説の妥当性について先人の研究を調べる習慣をつけてほしい。逆に経済学や政策科学自体に関心のある学生は、統計モデルなどについてより適切な統計的方法が無いのか、それをどのように使うのが正しいのかについて、一定のアンテナを張って欲しい。その意味で、今回入賞した論文は、こういった2つの側面を完璧に備えているとは言えないが、いずれもデータ駆動型時代を支える次世代人材の活動として高く評価される。

2019年度 統計データ分析コンペティション
論文審査会

【審査委員長】

椿 広計 大学共同利用機関法人 情報・システム研究機構
統計数理研究所長（統計センター顧問）

【審査委員】

佐伯 修司 総務省統計局長
笹島 誉行 独立行政法人統計センター理事長
佐藤 美佳 独立行政法人統計センター理事
（筑波大学システム情報系教授）
竹内 光悦 日本統計学会統計教育委員会委員長
（実践女子大学人間社会学部教授）
田村 義保 独立行政法人統計センター特別研究員
（統計数理研究所特任教授）
長尾 篤志 文部科学省初等中等教育局主任視学官
西村 圭一 東京学芸大学自然科学系教授
美添 泰人 一般財団法人日本統計協会理事長
渡辺 美智子 慶應義塾大学大学院健康マネジメント研究科教授

（敬称略、50音順）